

第十一回平成24年度

遺跡調査

報告会



田代遺跡全景



田代遺跡調査風景

展示・報告遺跡

○松ヶ崎遺跡

八戸市十日市

発表者・横山 寛剛
(縄文)

○田代遺跡

八戸市南郷区

発表者・田中 美穂
(縄文・弥生)

○新井田古館遺跡

八戸市新井田

発表者・船場 昌子
(中近世)

特別報告

○袖の平遺跡

岩手県軽米町

発表者・藤田 直行氏
(中世)

展示遺跡

○櫛引遺跡

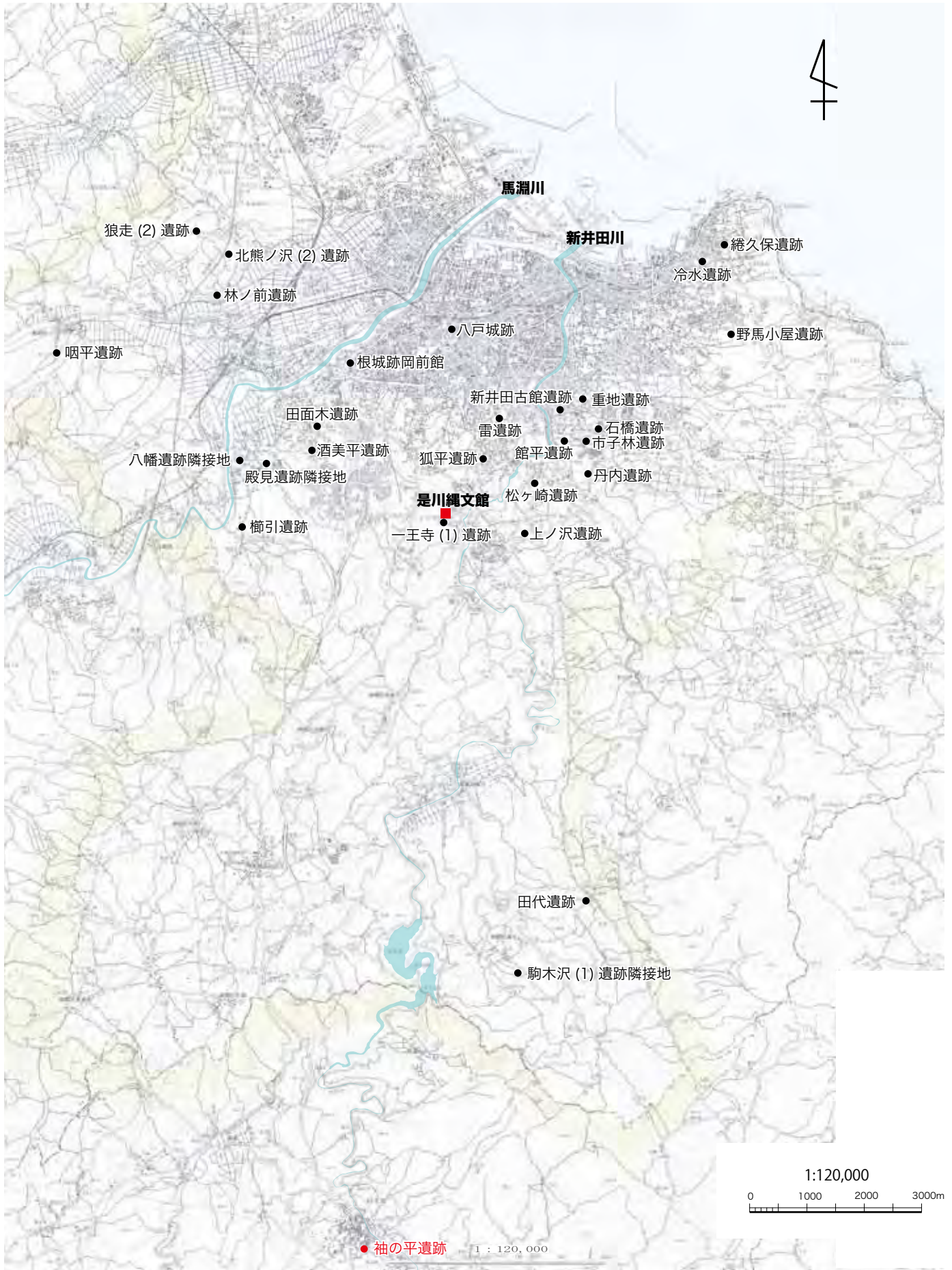
八戸市櫛引
(古代)

○館平遺跡

八戸市新井田
(古代)

平成24年11月17日(土)

主催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
会場：体験交流室



平成 24 年度発掘調査遺跡位置図

	遺跡名	時代・種類	所在地	調査原因	調査面積㎡	調査期間
試掘調査	1 館平	縄文・集落跡	大字新井田	個人住宅建築	14	4月10日
	2 櫛引	縄文・集落跡	大字櫛引	個人住宅建築	15	4月11日
	3 酒美平	奈良・集落跡	大字田面木	個人住宅建築	18	4月25日
	4 駒木沢(1)遺跡隣接地	縄文・散布地	南郷区大字島守	水辺整備	44.5	5月8日～11日
	5 野馬小屋	縄文・散布地	大字大久保	抜根整地	656	5月12日～24日
	6 八戸城跡	近世・城館跡	内丸三丁目	四阿建築	6.95	6月12日
	7 田面木	平安・集落跡	大字田面木	擁壁設置	39.5	6月13日～15日
	8 丹内	縄文・集落跡	大字妙	抜根整地	51	7月3日～10日
	9 館平	縄文・集落跡	大字新井田	個人住宅建築	29	7月13日～14日
	10 殿見遺跡隣接地	平安・古墳	大字坂牛	個人住宅建築	19	8月8日
	11 酒美平	奈良・集落跡	大字田面木	店舗建築	203	8月23日～25日
	12 冷水	縄文・散布地	大字鮫町	福祉施設建設	39	8月24日
	13 咽平	縄文・散布地	大字豊崎町	道路改良	50	9月1日、11月上旬
	14 上ノ沢	縄文・散布地	大字是川	道路改良	16.5	9月14日～21日
	15 雷	縄文・散布地	大字中居林	個人住宅建築	15	10月5日
	16 酒美平	奈良・集落跡	大字田面木	個人住宅建築	23	10月24日
	17 八幡遺跡隣接地	縄文・集落跡	大字八幡	店舗建築	10	10月30日
	18 松ヶ崎	縄文・集落跡	大字十日市	道路改良	—	11月予定
確認調査	1 根城跡岡前館	中世・城館	根城八丁目	個人住宅建築	167	4月19日～5月12日
	2 一王寺(1)	縄文・集落跡	大字是川	配水管改良工事	66	7月24日～8月6日
	3 石橋	平安・集落跡	大字新井田	下水道整備工事	300	11月予定
	4 重地	縄文・集落跡	大字新井田	下水道整備工事	110	8月28日～9月4日
	5 市子林	縄文・集落跡	大字妙	下水道整備工事	595	9月25日～10月24日
	6 北熊ノ沢(2)・狼走(2)	古代・集落跡	大字尻内町	鉄塔建設	123.5	9月4日～9月13日
	7 繕久保1地点	縄文・散布地	大字鮫町	下水道整備工事	128	11月予定
本発掘調査	1 新井田古館26・27地点	中世・城館	大字新井田	集合住宅建築	761.45	4月5・6日、7月11・14日～8月11日、10月2日～10月27日
	2 狐平5地点	古代・集落跡	大字中居林	集合住宅建築	50	4月17・18日、5月30・31日
	3 田代1地点	縄文・集落跡	南郷区大字島守	農地造成	2,700	4月27日～6月29日
	4 松ヶ崎16地点	縄文・集落跡	大字十日市	個人住宅建築	120	5月24日、7月3日～21日
	5 櫛引1地点	縄文・集落跡	大字櫛引	長芋作付け	388	5月25日～31日、6月2日～12日
	6 新井田古館28地点	中世・城館	大字新井田	集合住宅建築	3,166	6月20日～27日、11月予定
	7 林ノ前遺跡	平安・集落跡	大字尻内町	自然崩壊	400	7月18日～9月28日

平成 24 年度発掘調査遺跡一覧

1. 遺跡の概要

松ヶ崎遺跡は八戸市庁から南東に約 4 km に位置する、縄文時代中期を中心とした遺跡です。遺跡の西～北側を新井田川が、東側を支流である松館川が流れており、それらに挟まれた標高 22～45m ほどの丘陵突端部に集落が形成されています。遺跡の現状は、主に畑や果樹園ですが、宅地造成が年々増加しています。

本遺跡は当初、西側の西長根遺跡と、東側の松ヶ崎遺跡として登録されていました。しかし、両遺跡の調査により、その性格・内容が連続することがわかり、平成 19(2007)年にひとつの遺跡に統合されました。昭和 31 年(1956)に慶応義塾大学の江坂輝彌が発掘調査に訪れ、松ヶ崎遺跡に小さな貝塚があることを確認しています。

平成に入ってから、八戸市教育委員会による 15 地点の調査と、青森県教育委員会による 3 地点の発掘調査が行われており(図 1 参照)、これまでに約 100 棟におよぶ縄文時代の竪穴住居跡や多数の土坑、またこれら遺構に伴う多量の縄文土器・石器などがみつかっています。

縄文時代の遺物は早期から後期まで出土していますが、その中でも特に多いのが縄文時代中期後半の遺構・遺物です。また、近年では平安時代の集落や、円形周溝などもみつかっています。

今年の調査は、個人住宅建築に伴い平成 24 年 6 月 29 日から 7 月 14 日まで行いました。調査地点は遺跡の中心からやや東寄りの標高約 36m に位置します。調査面積は約 120㎡です。

2. 検出遺構

今年度の調査では、縄文時代中期前半の竪穴住居跡 4 棟・土坑 3 基を検出しました。SI52 竪穴住居跡はテラス状の張り出しが付いており、一段掘りくぼめた住居中央に炉が設けられています。炉は底の抜けた深鉢形土器(円筒上層 b 式)を使用した土器埋設炉です。SI53 竪穴住居跡は一部しか調査していませんが、類例から考えると直径 7～8 m ほどになる住居であったと予想されます。また方向の違う周溝が数条みられること、地床炉が 2 基あることから、複数の住居が重なり合っていたことが考えられます。

土坑は、フラスコ状土坑とよばれるもので、縄文時代の食糧貯蔵穴と考えられています。SK109 土坑は入り口の直径 1 m に対して、底面が 2 m 30cm と倍以上の広さをもっており、口から底までの深さが 1 m 60cm あります。

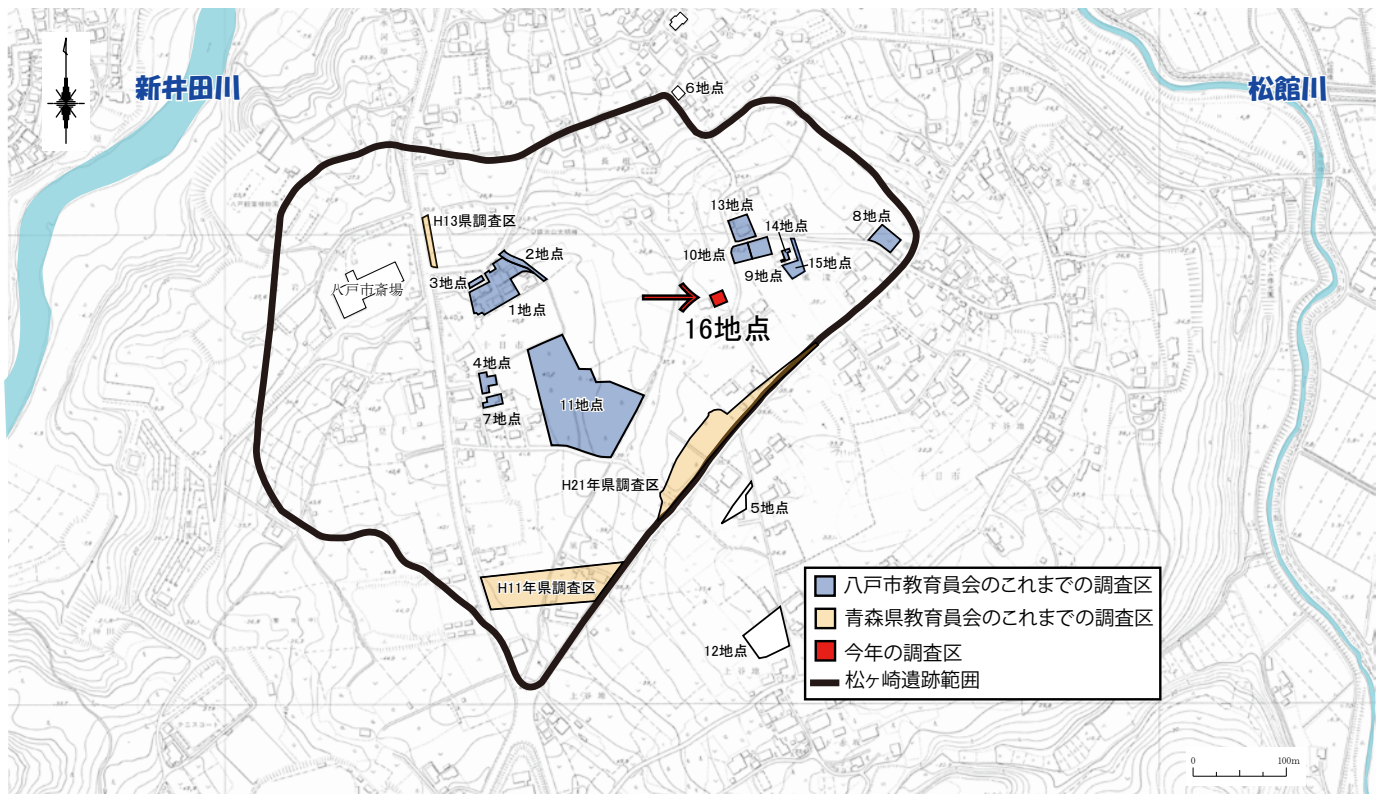
3. 出土遺物

縄文時代中期初頭から前葉の円筒上層 a 式から c 式土器と、これらに伴う石鏃や磨石などの石器が出土しています。遺跡西側を中心とする縄文時代中期後半の縄文土器は出土していません。SI53 竪穴住居跡からは、円筒上層 a 式から c 式土器が堆積土の上面のほぼ平坦な面からまとまって出土しています。その中には、高さが 75cm もある巨大な深鉢形土器もありました。土器の底部付近の表面は被熱により赤褐色に変色しており、底部内面にはコゲ付きが見られることから、加熱調理に使われたことがわかります。

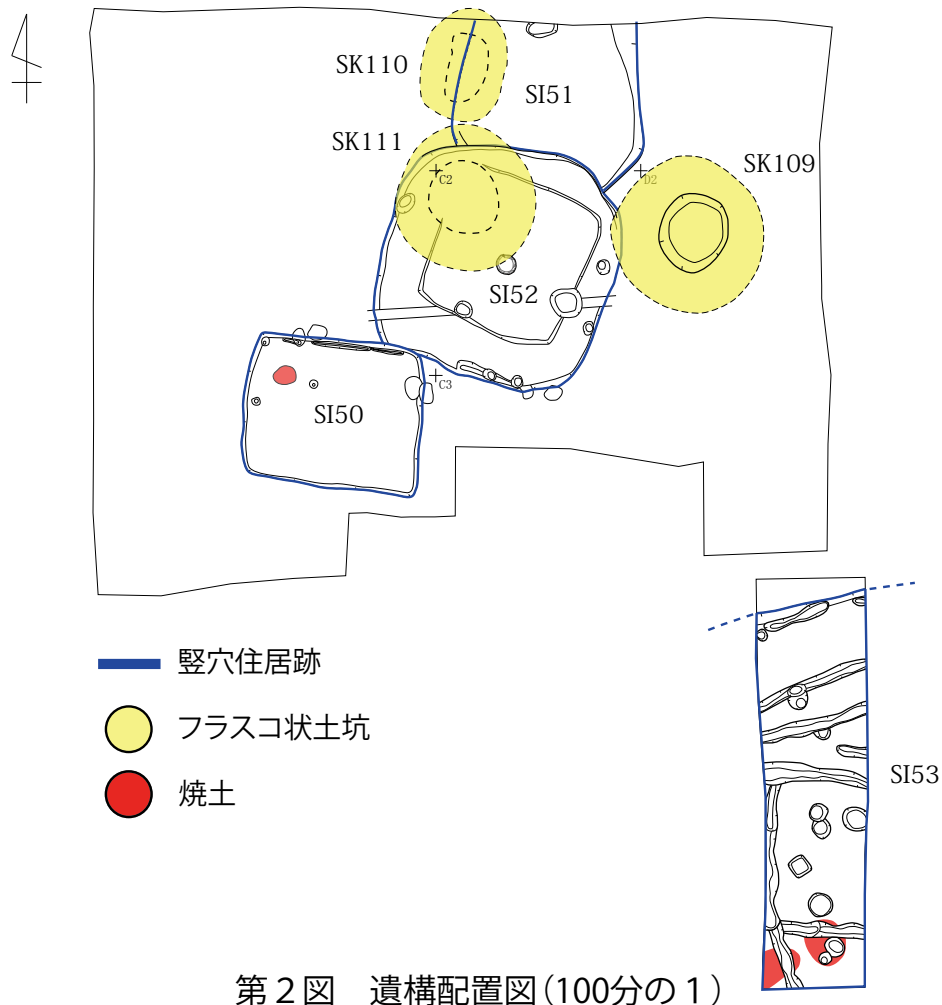
4. まとめ

これまでの調査により、松館川寄りの遺跡東側には縄文時代前期後半と中期前半の遺構・遺物、新井田川寄りの遺跡中央から北西側にかけて縄文時代中期後半の遺構・遺物が多いことがわかっています。また、縄文時代中期末から後期前葉の遺構・遺物は、遺跡の北・南・東側に広がる傾向がみられ、松ヶ崎遺跡の集落変遷の様相が明らかになりつつあります。

(横山 寛剛)



第1図 松ヶ崎遺跡調査区位置図(矢印が今年の調査区)



1. 遺跡の概要

田代遺跡は、八戸市南郷区大字島守字番屋に所在し、階上岳から連なる標高約 215 ～ 225 m の丘陵地に立地します。平成 16・17・21 年度に青森県埋蔵文化財調査センターによって発掘調査が行われ、縄文時代中期末から後期初頭を中心とする集落跡であることが明らかになりました。

八戸市では、平成 23 年度に試掘調査を行い、多数の遺構・遺物がみつかったため、同年本調査を実施しました。今年度は、昨年度に引き続き同じ地点の調査を行っています。

2. 調査成果

今年度は、2,700㎡を調査しました。今回の調査でも、沢に面した南向きの緩やかな斜面に縄文時代中期末～後期初頭の竪穴住居跡や土坑が多くみつかっています。また、弥生時代前期・中期の竪穴住居跡もみつかりました。弥生時代中期の竪穴住居跡は、青森県内では調査されている例が少なく、今回みつかった住居跡のように全体の規模・構造が明確にわかるものは珍しいため注目されます。

【縄文時代中期末～後期初頭の集落跡】

竪穴住居跡・土坑・屋外炉がみつかりました。竪穴住居跡には、「複式炉」とよばれる炉があります。複式炉とは、火を焚く部分(炉)が複数ある炉のことです。縄文時代中期の終わり頃に、東北地方や北陸地方でさかんにつくられました。複式炉の用途には様々な説があり、例えば、土器を埋めた炉・石組炉・作業場を組み合わせた複式炉の場合は、土器を埋めた炉はアク抜きに用いる灰の保存・火を絶やさないう火種を保存する場所、石で組まれた炉は調理・暖房・照明・アク抜き用の灰をとる場所、作業場は焚口や出入り口などと考えられています。今回の調査でみつかっている複式炉は、火を焚く部分が 1 つしかありませんが、炉と作業場の 2 つの部分から構成されているため、複式炉の一形態と考えられています。

遺物は、縄文土器や石器のほか、土製品などが出土しています。

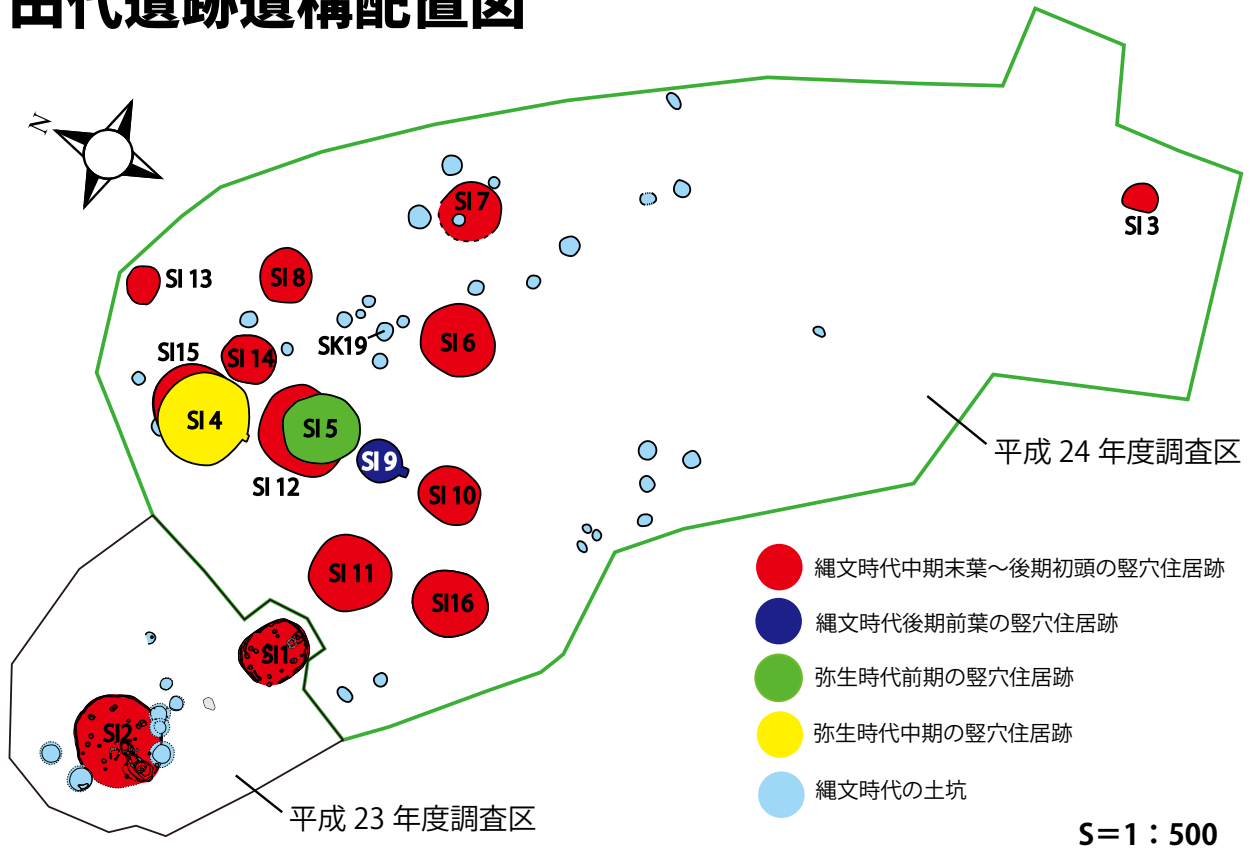
【弥生時代の竪穴住居跡】

今回の調査では、弥生時代前期・中期の竪穴住居跡が各 1 棟みつかりました。弥生時代中期の竪穴住居跡はとても残りの良い状態で発見されました。直径約 7 m の円形の竪穴住居跡で、同じ場所で住居を広く建替えていることがわかりました。炉は土器埋設炉です。青森県内で、この時期の竪穴住居跡の発見例は少なく、弥生時代中期の人々の生活のようすを考えるうえで貴重な発見となりました。

3. まとめ

昨年度の調査に引き続き、今年度の調査でも、縄文時代中期末～後期初頭の集落の広がりを確認しました。田代のムラはこの時期に最盛期を迎えたようです。その後、しばらく人々の生活の痕跡はみられませんが、弥生時代になると、再び少人数ながら生活していたことがわかりました。
(田中 美穂)

田代遺跡遺構配置図



平成 23 年度調査区の概要

調査面積 : 約 400 m²

竪穴住居跡 : 縄文時代中期末～後期初頭 2 棟

土坑 : 縄文時代 8 基

屋外炉 : 縄文時代 1 基

遺物 : 縄文土器・石器

平成 24 年度調査区の概要

調査面積 : 約 2700 m²

竪穴住居跡 : 縄文時代中期末～後期初頭 11 棟

縄文時代後期前葉 1 棟

弥生時代前期 1 棟

弥生時代中期 1 棟

土坑 : 縄文時代 30 基

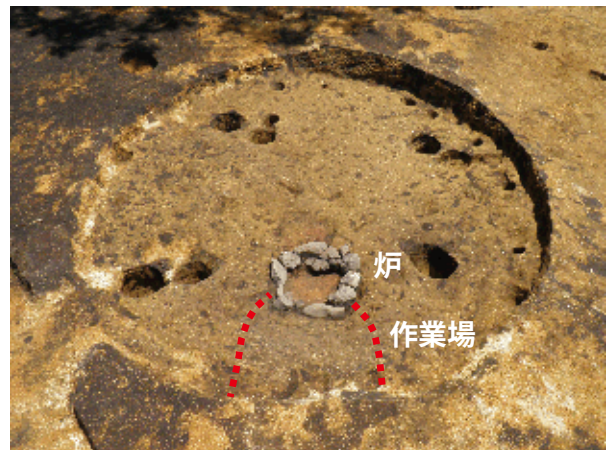
屋外炉 : 縄文時代 1 基

柱穴 : 近世 多数

遺物 : 縄文土器・弥生土器・石器・土製品・陶磁器



SI4 竪穴住居跡 (弥生時代中期)



SI8 竪穴住居跡 (縄文時代中期末)

1. 遺跡の概要

新井田古館遺跡は、八戸市南東部の新井田地区に位置し、縄文時代・古代・中世・近世の遺構・遺物が検出されています。遺跡の南側には、根城南部氏の一族、新田氏の居城である新田城（館平遺跡）があります。

これまでの調査で、堀や土塁で区画された空間に多くの掘立柱建物跡や竪穴建物跡が営まれた中世城館であることがわかっています。中世以降の状況は、溝で区画される第1期（15世紀頃）、堀と土塁で大規模な区画が作られる第2期（15～16世紀）、郭内部の堀が埋め戻される第3期（17世紀後半以降）の3時期に大きく分けられています。

2. 主な遺構

今回の調査地点は、以前の調査でみつかった大規模な堀跡の南東に位置する26・27地点です。調査面積は26地点が230㎡、27地点が479㎡で、中近世の竪穴建物跡・土坑墓・井戸跡・堀跡・多数の柱穴のほか、縄文時代の溝状遺構、古代の竪穴住居跡を検出しました。

【26地点】調査区南半は近代以降の建物によって壊されていましたが、中近世の竪穴建物跡1棟、土坑6基、土坑墓1基、井戸跡1基、堀跡・溝跡5条、柱穴のほか、縄文時代の溝状遺構1基を検出しました。調査区を東西方向に横切る2条の堀跡は、北側は底が平らな断面箱形の堀、南側は底が細くなる断面V字形の薬研堀となっており、南北で構造が異なっています。

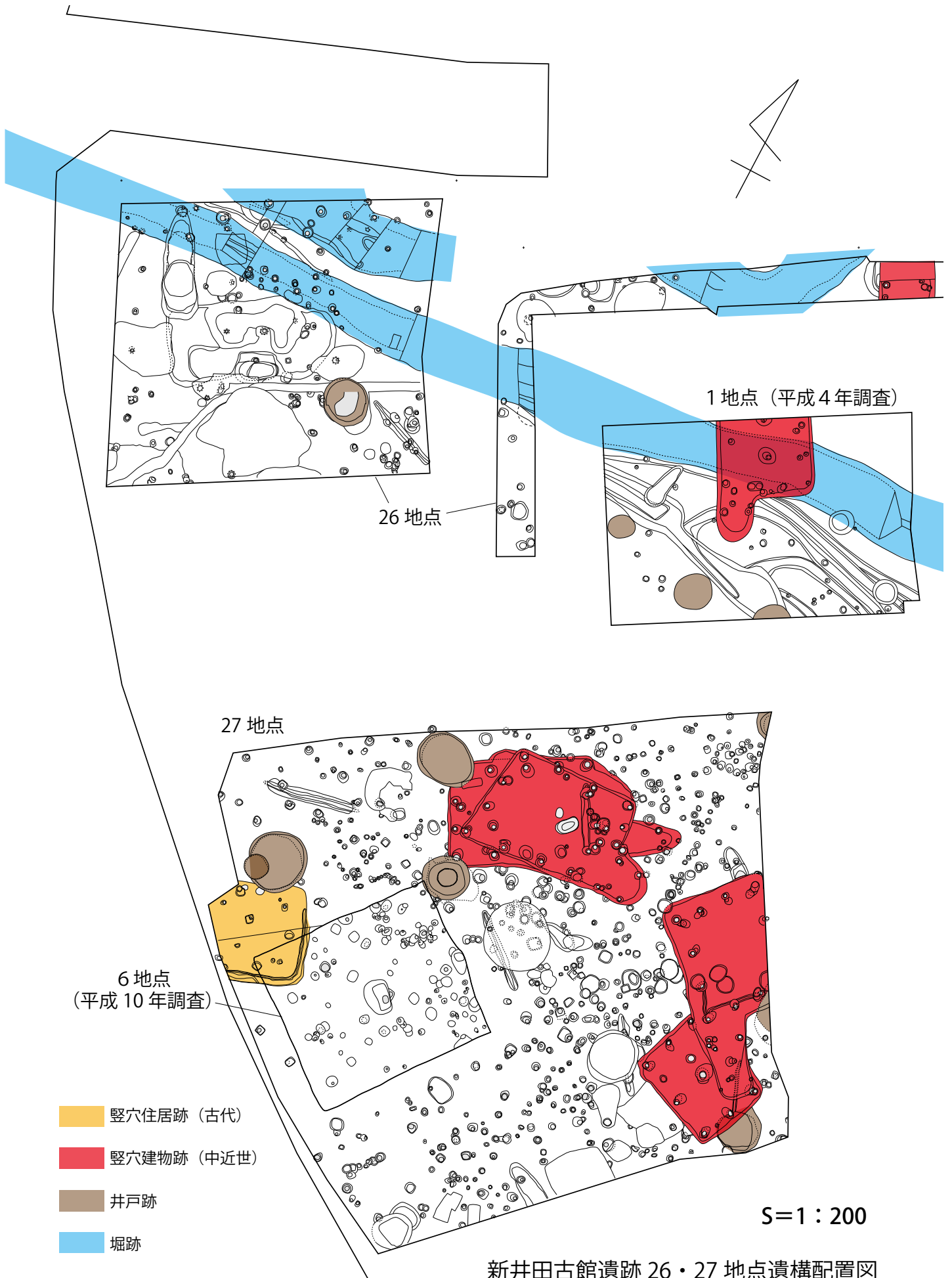
【27地点】中近世の竪穴建物跡4棟、土坑7基、井戸跡7基、溝跡1条、柱穴多数のほか、縄文時代の溝状遺構3基、古代の竪穴住居跡1棟を検出しました。調査区全体に多数みつかった柱穴は、深さ90cmにおよぶものもあり、多くの掘立柱建物が想定されます。井戸跡からは、板材を立てて固定した井戸枠がみつかりました。

3. 主な遺物

中近世の陶磁器・土器・鉄製品・銭貨・石製品、土師器、縄文土器などが出土しました。26・27地点ともに、中世の遺物は多くありませんが、中国産の青磁碗、銭貨が出土しました。27地点竪穴建物跡堆積土中からは、直径約5cmの琥珀塊が出土しました。

4. まとめ

今回の2地点の調査では、中近世の遺構を多数検出しました。26地点で検出した2条の堀跡は、西側の調査区で検出された堀跡と連続する可能性が高く、城館内部の区画の変化を検討する上で、重要な成果といえます。また、27地点では竪穴建物・掘立柱建物・井戸が繰り返し構築される状況がうかがえます。今後、各遺構の時期や変遷を整理し、これまでの調査成果も含めて遺跡内の様相を検討していきます。（船場 昌子）



新井田古館遺跡 26・27 地点遺構配置図

1. 遺跡の概要

袖の平遺跡は、軽米町中心部の南側、軽米町大字軽米第5地割字大開に所在し、町立軽米小学校の南側に位置します。遺跡は標高159m～162mほどの南東方向に傾斜する緩やかな丘陵地に立地しています。北側の一部は小学校グラウンドとして既に削平・盛り土されていました。

元々は畑地を縄文時代の遺跡として登録していましたが、軽米小学校新築造成工事に伴う試掘調査の結果、古代以降の集落跡である可能性が考えられたため、昨年6月より記録保存のための発掘調査を開始しました。

2. 調査成果

調査は平成23年6月～11月までと、冬期休止を挟んで平成24年4月2日～6月29日まで再調査を行いました。発掘調査面積は約2,500㎡です。

調査の結果、竪穴建物跡6棟、掘立柱建物跡10棟以上、柵列9基、井戸跡5基、土坑4基、焼土遺構6基、溝状遺構3基が検出されました。

竪穴建物跡は、南西部に6棟が集中し、張り出し部を設けるものも見られます。SIO3・04では排水用の壁溝が設けられ、またSIO4の北側には開口部があり、底面が白色粘土で固められ傾斜していることから出入口と考えられました。

掘立柱建物跡は、柱間の間尺が200～230cm程度で現在までのところ14棟復元されていますが、まだ増える可能性があります。大きいものでは二面庇付2間×5間があり、2棟が交差していること、また建物の軸方向が異なる建物が見られることから、2時期以上の建て替えが行われていたと考えられます。

井戸跡は南東側で2基、北東側で3基検出されました。開口部径1.5～2.7m、深さ2mほどの素掘り井戸が基本ですが、SE01では井戸枠の板材が出土しました。また、SE03から曲げ物・鞍などの木製品・植物質遺物が出土しました。

溝跡は幅1.5m、深さ60cmほどで、南側と東側に見られましたが、西部及び南東部では確認されませんでした。

出土遺物は、陶磁器では須恵系陶器の珠洲焼の播鉢・甕片が竪穴建物及び柱穴より出土し、13世紀前半（鎌倉時代）と推定されました。瓷器系陶器・中国産白磁・青磁も出土し、概ね13世紀～14世紀前半（鎌倉～室町時代前半）と推定されています。金属器では、釘・楔などの鉄製品、銅製品（鎧の覆輪か）、宋銭・明銭、フイゴの羽口、鉄滓などが確認されました。動物遺存体では、馬の上顎骨と歯列がSD01より出土しました。木製品では、井戸跡から曲げ物、鞍（前輪か）、漆器椀、杵状・板状木製品、杭、井戸枠材などが出土しました。また、植物質遺存体として、クルミ等の実や木の表皮も多数出土しました。

3. まとめ

珠洲焼は能登半島にある石川県珠洲市付近で焼かれ中世に日本海側で流通したのですが、鎌倉期としては太平洋岸の八戸市内及び周辺での発見例はなく、鎌倉時代後半を中心とする区画溝を持つ居館跡とされる二戸市諏訪前遺跡に次いで2例目の貴重な発見となりました。

また、太平洋側で流通した陶器や中国から輸入した磁器等を持つなどの経済力、掘立柱建物の規模・配置等から、この遺跡は鎌倉時代の軽米地域における有力者の屋敷跡であると考えています。

当町を含む馬産地・糠部地方は、鎌倉期の文献に乏しく、また調査遺跡例も限られることから、この空白の時期を解明する上で貴重な資料を得ることが出来たといえます。

(藤田 直行)



軽米町 袖の平遺跡 遺構配置図

第十一回 八戸市遺跡調査報告会次第

- 13：00 報告会展示室会場 (2階研究室)
13：30 報告会受付開始
14：00 開会挨拶
14：05 平成24年度調査概要
14：15 調査成果報告 松ヶ崎遺跡
14：35 調査成果報告 田代遺跡
14：55 5分休憩
15：00 調査成果報告 新井田古館遺跡
15：20 調査成果報告 袖の平遺跡
15：50 質疑応答
16：00 閉会挨拶
閉場 (報告会展示室は 16：30 まで)

